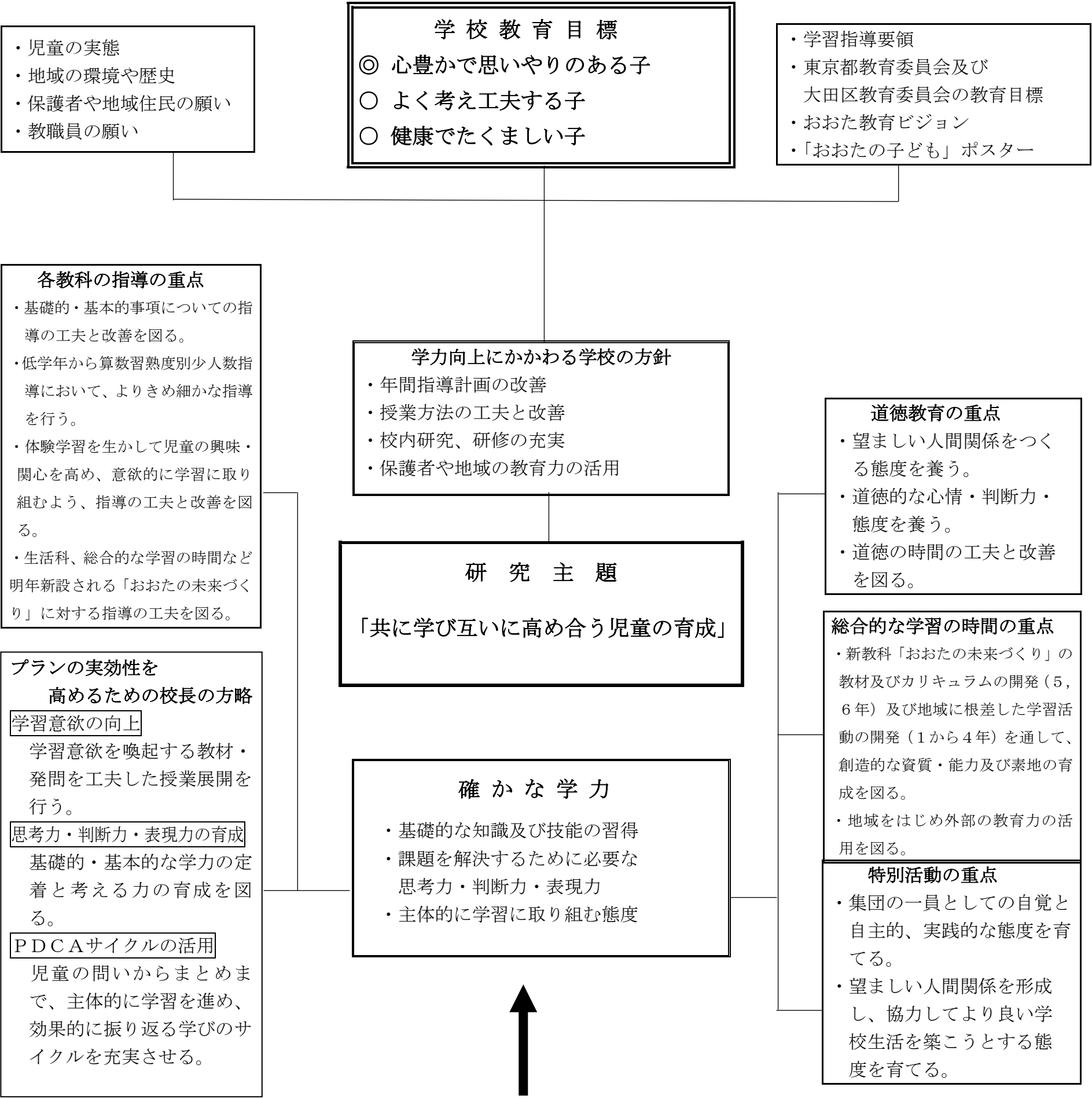


令和六年度

馬込第二小学校

学力の向上を図るための全体計画



授業改善に向けての取り組み				
指導方法の工夫	教育課程上の工夫	校内研究の取り組み	評価の工夫	家庭・地域との連携
・国語では「書くこと」「読むこと」について、言葉による見方・考え方を育てる指導の工夫をすすめる。 ・算数では、基礎的・基本的事項の定着を図るとともに、図や数直線を活用し、考え方の根拠となる指導内容の工夫をすすめる。 ・生活科、総合的な学習の時間など「おおたの未来づくり」に対する基礎研究の確立を図る。（本年度、研究教科） ・年間を通して算数補習教室を実施。学習指導講師を活用する。 ・ICT機器の活用。（ドリルパークなどを学習内容の定着を図る）	・馬二タイム（朝学習）を活用し、学級の実態に合わせて漢字や計算の学習を行う。 ・3～6年の週一回の放課後算数補習教室、年6回の全学年の算数補習教室を実施し、児童の学力向上を図る。 ・特別支援学級と通常の学級との交流を深めるとともに、特別支援教育の充実を図るための研修を行う。	・新教科「おおたの未来づくり」の来年度本格実施に向けて、本校のカリキュラムを構築し、実践をしてみる。また、第1学年から第4学年については、第5・6学年で行う地域創生につなげていくために、地域に根差した学習活動を開発していく。 ・「おおたの未来づくり」で育てたい創造的な資質・能力及びその素地について、本校の実態を鑑みながら、本校で育てたい力が具体的な児童の姿を通して、教員全員が共通理解することができるようしていく。	・評価委員会を設置することで、授業計画の中の評価の位置付けを明確にした。 ・1～6年の各学年の評価基準を評価委員会で話し合いを行う。評価内容を精査し、教職員間で共通理解を図り、全体として評価規準の活用をすすめることで、毎年の指導計画や児童の実態に即した評価内容とした。	・保護者や地域住民をはじめとする外部の教育力を活用することで、本校教育活動の理解を図る。 ・地域教育連絡協議会の活性化を図りながら、学校関係者評価の結果を学校運営などに生かしていく。 ・学校支援地域本部（スクールサポート馬二）を活用することで、地域との連携を深め、本校の教育活動の理解を更に推進する。 ・生活科、総合的な学習の時間など「おおたの未来づくり」に係る地域交流を推進する。